

1 学期終業式

7.20

- 今年度の始業式、「無理をしてでも背伸びをし続ける者が、短時間で大きく変われるのが青春時代の特徴」と、諸君にエールを贈った。早いもので、3月半が経って、もう1学期が終わろうとしている。
- この間に、勉強や生徒会活動、委員会活動などで背伸びをしながら「おっ、やってるな」という姿の生徒を数多く見てきて、頼もしい思いも持っている。
- また、部活動でも、各部が目指すものに向かって力を尽くす場面も見えてきた。しかし、目標まで到達する難しさを感じた生徒も多いのだろうと感じている。これから上位大会に臨む数名とサッカー部、吹奏楽部を除いて、殆どの3年生は引退した。
- 高校における部活動は、どこかで負けて終わる、あるいは選ばれずに終わる、ということがその特徴とも言える。
負けずに勝ち続けて、あるいは選ばれ続けて、終われる高校生は全国のトップだけ。
- 3年生は、部活動から何を心得、上がり方をどう迎えたのだろうか。
- 部活動にしろ、高校生の本分である学業・授業にしろ、ある結果をどう受け止めるかということに、その個々人が持つ資質や態度が表れる。特に物事が上手く進まなかった結果に直面したときに、その根性が見えてくる。本校生には、上手くいかなかった結果をお利口ぶって易々と受け止めるような若者にはなってほしくない。
- 例えば校内外の様々な学力テスト等であっても、上手く進まなかった結果に対してときに、易々と受け入れるような高校生にはなってほしくない。何か言い訳を作って自分を納得させてしまうような者にはなってほしくない。
- 負けて整理しきれない悔しい思い、思ったほど点数が取れなかった悔しさをエネルギーに変えて然るべく行動する「突破力」の発揮を期待している。
- 私が言い続けている本校の「文武両道」（単なる勉強・部活の両立ではなく、「文」：知識・技能、「武」：精神力・体力。勉強も文武、部活動、特別活動も文武の相互作用。）部活動を上がった3年生に、自分の進路実現を賭けた学業における「文武両道」、勉強一本に立ち向かう力がしっかり身についたのだと、大いに期待している。また、今後も勉強と部活動の両立を図っていく、1・2年生にも、好きなことだけでなく、自分のためにすべきことに立ち向かう力が、次第に身に付いているのだと期待する。
- 「念ずれば花開く」。入学式で3年間言い続けた言葉。部活動も進路の実現も、高校におけるすべての学習活動は、諸君が自分の人生を切り開いていく力を付けるための、あるいは将来、社会を担って前に進めていく力を身に付けるための手段であるということ肝に銘じ、各自が目指すところに向かって力をためる夏休みとなることを期待している。